

『実践力』を高める防災教育の研究
～自ら考え、判断し、実践できる生徒の育成～

研究概要リーフレット

埼玉県志木市立志木中学校

課題

- 1 災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるように、生徒に考える力を身に付けさせる。
- 2 防災知識の継承のため、生徒の組織的かつ継続的な取り組みを行う。（安全・防災委員会の発足）
- 3 中学生として地域の防災リーダーとなる自覚を持たせ、より実践的な防災知識を身に付けさせる。

c 小中合同引き渡し訓練

志木小、志木三小と共に合同訓練を行いました。中学生として、責任をもって家族を無事に避難させるという意識を高めることができました。

d マイ・ハザードマップ 1学年

登下校中の通学路を調査し、どこに危険があるかを学び、地域の防災の取り組みや避難経路について見識を深めました。

e HUG（避難所運営ゲーム） 2、3学年

実際に志木中が避難所になった時にどのようなことが起こるかを学習し、防災リーダーとして、ものの見方や考え方を学びました。

f 福祉インタビュー体験 2学年

聴覚・視覚障害、肢体不自由のある方を招いてインタビューを行いました。災害時に様々な人の立場に立って考え、行動する力を養いました。

g 避難所設営体験 3学年

避難所開設時を想定して、簡易パーティションの設置方法や水の運搬方法、紙食器のつくり方など実践的な体験学習をしました。

研究推進委員（令和4年度）

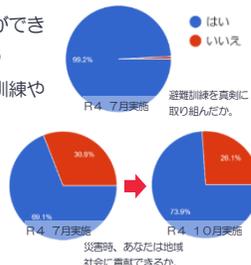
研究推進委員（令和3年度）

研究推進委員（令和2年度）

令和4年度 避難所設営体験の様子 3学年

研究成果

- 1 避難訓練に関して、生徒は主体的に取り組むことができた。（生徒のアンケートで99.2%が肯定的意見）
- 2 実際の災害の状況に近づけて、より実践的な避難訓練や体験学習を行うことができた。
- 3 全教員が授業を改善し、生徒の思考力・判断力を醸成する授業を意図的に行うことができた。
- 4 生徒の実践力を伸ばしたことで、地域社会に貢献できるという自信を持たせることができた。



埼玉県志木市立志木中学校

〒353-0007 埼玉県志木市柏町3丁目2番2号
TEL：048（471）0143
FAX：048（474）6592

学校教育目標

- 考える人
- 思いやりのある人
- たくましい人

志木中学校では、平成29年度から令和元年度の研究成果を踏まえ、令和2年度から令和4年度の3年間、志木市教育委員会委嘱研究指定校として、「『実践力』を高める防災教育の研究 ～自ら考え、判断し、実践できる生徒の育成～」を主題に研究を推進してこられました。

大地震と向き合うことが求められる日本特有の課題やそれ以外の災害に対して、生徒が主体的に「自分の命や他人の命を守ること、

安全を確保すること」ができるようにすることが大きなテーマとなっております。志木中学校では、生徒の実態を把握したうえで、全教育活動をおとして、どのような資質・能力を育成することが必要なのかを協議し、練り上げられた仮説に基づき、様々な手立てを講じております。

生徒たちに「思考力・判断力」「地域・社会へ貢献しようとする心」「実践する力」を育成すべく、各教科をはじめ、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間等、防災に関する研究授業を軸に、教科横断的に取り組んでおりますので御確認ください。

さらに、全教職員が各部会に分かれ、避難訓練の実施と振り返り、外部指導者の導入による専門的な防災教育の実施等、生徒の力を伸ばそうと随所に創意工夫をしている様子を見てとることができるのではないのでしょうか。

さて、コロナ禍の環境下での研究となりましたが、生徒が災害に関する情報を正しく判断し、命を守り抜くための行動に結び付けられるように指導することが求められる中、志木中学校では教職員が一体となって取り組みました。今後は、その成果について、市全体ひいては県内の貴重な財産として、広めてほしいと願っております。

結びに、本研究の推進にあたり、本荘真校長をはじめ、熱心に研究に取り組みされた教職員の皆様の御努力と、研究推進に御尽力を賜りました関係者の方々から心から感謝申し上げます。

学校長あいさつ 志木中学校 校長 本荘 真

本校では、令和2・3・4年度の3年間において志木市教育委員会から委嘱を受け、「『実践力』を高める防災教育の研究 ～自ら考え、判断し、実践できる生徒の育成～」を主題とし研究に取り組んできました。

研究の仮説を「学校教育全体で、思考力・判断力・実践力を高め、社会へ貢献しようとする心を育てれば、災害時、慌てず速やかに自分や人の命を守るために行動できる生徒を育成できるであろう。」

と定め、各教科や特別活動、総合的な学習の時間、すべての授業を通じて防災意識を高め災害時に行動できる生徒の育成に努めてきました。

今年度、通常の避難訓練の他に、生徒には知らせずいわゆる「抜き打ち」での避難訓練を実施しました。その際に「災害はいつどこで起こるか分からない。そこに誰も指示を出してくれる人がいないかもしれない。何か起きたときは慌てず落ち着くこと。そして何をすべきかよく考えること。よく考えた上で『命』を守るために行動すること。皆さんは中学生なので、できたら周囲をよく見て、助けが必要な人がいたら助けるという行動をとってほしい。」そんな内容の話をしました。

本校の生徒は、授業はもちろん生徒会や委員会での活動の様子を見てると、タブレット端末等をうまく活用して積極的に行動し表現できるという良さを身に付けています。「実践力」の芽は育っていますので、何か起きたときにそれが活かせるか、今後の成長に期待したいと思っています。災害時に必要な人とは「考える人 思いやりのある人 たくましい人」まさに本校の学校教育目標そのものであります。

結びに、本研究の推進にあたりご指導、ご尽力をいただきました新座市防災組織連絡協議会長 大橋鉄二郎様、志木市教育委員会教育長 柚木博様をはじめとする諸先生方、ご協力いただきました志木市総務部防災危機管理課の皆様へ心より感謝申し上げます。

研究の目的

自他の生命を尊重し、安全のための思考・判断・行動ができる生徒の育成

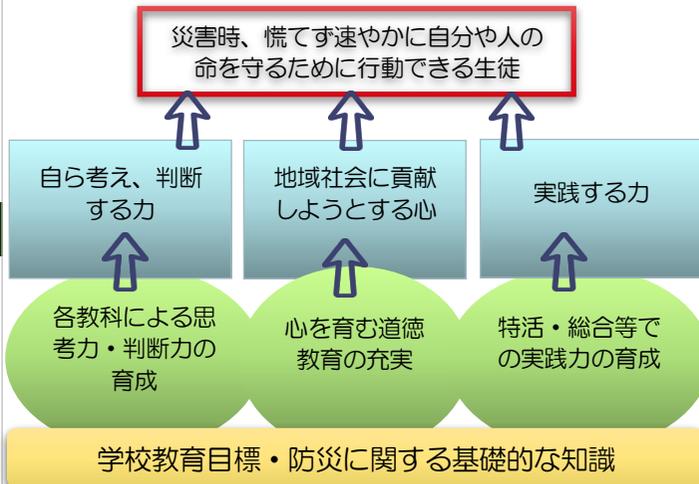
東日本大震災から12年、関東地方でも首都直下型地震、南海トラフ大地震の発生が懸念されており、防災教育の必要性は切なるものがある。実際に災害が起こった時には、自分で自分の命を守ること、安全を確保することが最も求められる力となる。状況に合わせて生徒が自ら考え、判断し、他者を思いやり、防災リーダーとして実践的に社会貢献できる力を育てる必要があると考える。

研究仮説

学校教育全体で、思考力・判断力・実践力を高め、社会へ貢献しようとする心を育てれば、災害時、慌てず速やかに自分や人の命を守るために行動できる生徒を育成できるであろう。

研究仮説へのアプローチ

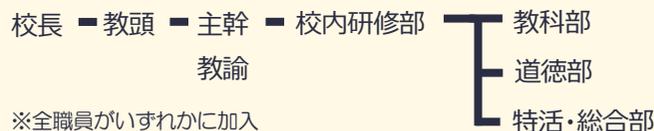
研究の全体構想図



学校教育目標及び、防災に関する基礎的な知識を土台として、学校のすべての活動において研究仮説にアプローチしていく。

1. 各教科で、思考力、判断力を育成できるように授業を実践する。
2. 道徳教育を充実させ地域・社会に貢献しようとする心を育てる。
3. 特活・総合的な学習の時間で主体的に参加する実践力を育てる。

研究組織



研究概要

○令和2年度

- ・発達障害・ユニバーサルデザイン等に関する研修会 (障害者理解・多様性理解) } 毎年実施
- ・エビペン講習会
- ・AED、心臓マッサージ講習

○令和3年度

- ・防災一斉授業「考える防災」実施 ※参照 a
- ・イツモ防災講演会 ※参照 b
- ・イツモ防災インストラクター 救急救命士 渡邊 一興 様
- ・防災授業に関する研修会
- ・理科研究授業実施 (思考力・判断力を育成する授業)
- ・抜き打ち避難訓練 実施
- ・プログラミング的思考力に関する研修

○令和4年度

- ・小中合同引き渡し訓練の実施 ※参照 c
- ・2・3学年「HUG 避難所運営ゲーム」体験 ※参照 d
- ・1学年総合「マイ・ハザードマップ」 ※参照 e
- ・2学年総合「福祉インタビュー」 ※参照 f
- ・3学年総合「避難所設営体験」 ※参照 g
- ・抜き打ち避難訓練 実施
- ・防災教育に関する研究発表会開催
- ・防災教育講演会 新座市防災組織連絡協議会長 防災士 大橋 鉄二郎 様

取組の様子



a 考える防災授業

予期せぬ事態に、生徒が自ら考え行動するという視点で、全校一斉の授業を行いました。身の回りの危険箇所にも気づくことができました。



b イツモ防災講演会

被災現場の実際の様子について、元救急救命士の方が詳しく説明してくれました。また、簡易トイレの設営を体験しました。